

## 合唱の喜び

音楽科 第3学年  
白山市立北辰中学校・教諭

## 1 事例の概要

音楽科の表現領域の指導では、伝えたい気持ちを全員に強く持たせて取り組ませることにより、曲の雰囲気合った表現の工夫と個々の表現技能や集団としての合唱する技能を高めることができると考えている。本校生徒は高い目標に挑戦する生徒が多く、合唱コンクールが終わると表現の工夫や表現技能の成長を感じることができる。今回、3年生の混声合唱による表現活動を通して、個や集団としての確かな学力が身につくよう指導した。

## 2 実践内容

## (1) 題材の目標

- ・曲の雰囲気を感じ取って、合唱表現することに意欲的に取り組んでいる。
- ・自分たちの合唱に関心を持ち、より高めようと進んで活動に参加している。
- ・和声や楽曲の仕組みなどの特徴を生かした表現を工夫する。
- ・声部の重なりを感じながら、楽曲の構成を生かした合唱表現をすることができる。

## (2) 指導上の工夫点

## ① リーダーの自主性を尊重した活動

混声合唱の指導では、曲種の特徴からパート練習・全体練習と練習の目的や時期によって学習及び演奏の形態を工夫するためリーダーの役割が重要である。これまでの経験と既習を生かし、それぞれの練習での注意項目等をリーダーを中心に生徒達自身に考えさせ、課題やつまづきの視点を明確にし、短い練習でも実りあるものになるよう目標を持たせて取り組ませた。

## ② 録音による形成的評価を生かした自己評価

演奏の記憶は時間とともに消失するため、本年度より録音する機会を多く取り、客観的に聴かせ自己評価を行えるよう工夫した。他クラスや卒業した先輩の合唱との比較を通して、その良さを取り入れ、合唱に対する意欲を高めるよう工夫した。

## ③ アカペラによる歌唱指導の実践

声そのものの魅力を感じさせるためにアカペラでの練習を導入し、ユニゾンやハーモニーの響きを感じとらせ、合唱の響きを安定させるよう工夫した。

## ④ ハーモニー通信による練習方法のアドバイス

普通教室で練習する時間も多くあることから、授業の振り返りの自己評価から生徒の悩みやつまづきをとらえ、その改善につながるようにハーモニー通信を出している。

## ⑤ オリジナリティを重視した表現の工夫

コンクールで選ぶ自由曲をそのクラスの特別の歌であると意識付けるために編曲等の工夫を奨励している。新しい歌詞やメッセージの挿入、アカペラの導入等の独創性を学習意欲の喚起につなげている。

## B-1 ワークシート

## B-2 評価計画

## 3 指導の実際

課程	生徒の活動	教師の支援	評価項目と方法
	各パートの音程をしっかりとつかもう 旋律を歌い、リズムを確認する ・原曲を聴いて雰囲気をつかむ	・知っている曲なのでのびのびと歌うように指示する。	

展 開	・リズムと音程を確認しながら歌う 楽譜のユニゾンの部分に印を付ける	・リズムの変化を確認しながら反復練習を行う。 ・ユニゾンやハーモニーの場所を明確にし、学習の目安を与える。	① 関心意欲態度 ・音楽活動に積極的に参加しようとする。【観察】
	最初のハーモニーを確認する ・和音を感じて歌う  パート毎に練習する ・テープに合わせて音程とリズムを確認する。	・ハーモニーを感じて、そのあとのパート練習への意欲を高める  ・メロディー以外の部分を中心に学習するよう指示する。 ・机間指導をしながら個々のつまづきを見つけ、アドバイスをする。	

## C-1 学習指導案

### 4 成果と課題

#### (1) リーダーの自主性を尊重した活動

3年生にもなると練習方法も身に付いており、主体的に学習を進めることができるようになってきている。特にリーダーは、周りの意見を参考にし、課題を考えながら効率よく練習を進めることが必要となってくる。実際、苦手な箇所の部分練習を繰り返し行うなど、課題に合わせて練習を工夫しているグループや一人ずつ音程を確認したり、口の開け方などに注目し練習を進めるグループもあった。また、生徒のアンケートから自主的な活動によって音楽を創り上げる喜びを感じている様子が伺え、やはり受け身の授業でなく主体的に取り組ませることで成就感を味わえることがわかった。今後は、1、2年時にリーダーの役割や練習の方法について指導していくことにより、3年時にクラス単位でなくその学年として自主性が身に付いているように育てていかなければならない。

#### (2) 録音による形成的評価を生かした自己評価

録音による客観的な自己評価や相互評価が、学習活動にどのような効果があるか興味を持ちながら指導を行った。その結果、録音を聴く態度や諸要素を捉える感性も向上し、自分たちの課題がより具体的に理解でき、その後の学習に生かすことが出来ていた。また、他のクラスや先輩の合唱を聴きその良さを見つけることにより自分たちの合唱表現にも幅がでてきた。

#### (3) アカペラによる歌唱指導の実践

ユニゾンやハーモニーをより美しい響きにするために、アカペラを取り入れた。ピアノ伴奏から自分の音程を感じることも大切だが、声そのものの重なりを感じてハーモニーの素晴らしさを実感させることができ、生徒達の満足そうな表情を見ることができた。逆にアカペラで合っていないと伴奏と合わせても美しい響きにならないこともわかり、キーボードを使って一生懸命音程確認をするパートも見られた。このようにアカペラを導入することにより、自分の声に集中することが出来るようになり、各自の音程や混声合唱の響きが安定してきた。

#### (4) ハーモニー通信による練習方法のアドバイス

放課後の練習は普通教室で行うことが多く、その時々状態に応じて練習を工夫することが必要である。並び方や進め方を工夫することにより、マンネリ化しやすい教室練習に変化をもたせ、目的を持って練習に取り組むことが出来るようになった。

#### (5) オリジナリティーを重視した楽曲の編曲

今年のアンケートから、3年生の合唱の生徒による評価が高く、感動も大きいことが分った。その要因は、クラス全員で話し合い自分たちにしか歌えない自由曲を創っているからであると思われる。自分たちで編曲をしたり、言葉を考える創造的な活動により、自由曲に対する思いも強くなり、大切に歌おうという気持ちが演奏に反映されたといえる。今後も歌唱及び合唱表現の向上を目指しながら、オリジナリティーを生かした編曲等の活動を通して、生徒の感性を高めていきたい。

## D-1 ハーモニー通信

## D-2 生徒感想